

絵本への興味付け

～尾鷲市における絵本の読み聞かせの経験から～

中 條 敦 仁

1. 目 的

尾鷲市立尾鷲図書館にて、こどもから大人までを対象に絵本の読み聞かせをおこなった。今回は、読み手の解釈をもとに、演じて読むという「演じ聞かせ」をした。この実践をもとに、本稿の目的として、以下の2点について述べたい。

- ①演じ読みを選択した意図や実践後感じた効果まとめ
- ②事後アンケートに記された参加者のコメントから浮かび上がった絵本の演じ聞かせの有効性

2. 実 践

ここでは、企画から、実践後に至るまでの内容をまとめ、今回の実践結果に対する稿者の印象と見解を述べる。

2-1. 企画と準備

尾鷲市立図書館の求めにより、大人を対象とした「絵本を見ながら、こどもの気持ちを考えてみましょう」という読み聞かせの講演会を企画した。

その概要は、以下のとおりである。

尾鷲市立図書館 第69回読書週間企画図書館講演会 日 時：平成27年10月24日（土）13:30～15:30 場 所：尾鷲市中央公民館 3階 大会議室・和室
--

対象者：保護者や読者ボランティア等（大人向け）

講演題：「絵本を見ながら、こどもの気持ちを考えてみましょう」

内 容：こどもが心の中に秘めている気持ちを、絵本を手掛かりに考えてみるという読み聞かせを中心としたもの

企画段階では、講演題に「絵本を見ながら、こどもの気持ちを考えてみましょう」とあるように、大人を対象とした読み聞かせの予定であった。

しかし、事前申し込みの結果、こどもとともに参加申込をした保護者が多かったため、実践の準備段階で、こども向けの読み聞かせも含めて、こどもから大人までを対象としたプログラムへと変更し、架蔵本から大人向けの絵本とともに、こども向けの絵本も持っていった。

そのリストは、本稿末に付した。

2-2. 実践当日

当日の参加者は、幼児から小学生までのこども27名、保護者と読書ボランティア等の大人46名の、計73名であった。

今回は、簡易の本立てを用意してもらい、参加者から見て、右に「こどもの気持ちが描かれた絵本」、左に「お父さん、お母さんの気持ちが描かれた絵本」、そして中央に「こどものための明るく楽しい絵本」を展示し、そこから数冊選び取り、読み聞かせをした。

今回は、一般的な「なるべく声に抑揚をつけず、声色を変えたり、役柄を読み分けたり、演じ分けたりせず、なるべく淡々と読む」という教育的な観点からの読み聞かせではなく、読み手である稿者の解釈に重きを置き、参加者の雰囲気や反応にも合わせ、「演じる」ことを中心とした読み聞かせをおこなった。稿者はこの読み方を「絵本の演じ聞かせ」と呼んでいる（以下、「演じ聞かせ」とする）。

一般的に、演じ聞かせは否定されることが多い。それは、「こどもたちの自由な読みが阻害される」、「声色や読み手の表情や動きなどへの印象が強くなり、絵本そのものの内容が残りにくい」、「その絵本に対して一定のイメージを与え

てしまい、読み返しの時に読みが固定化されてしまう」などのデメリットが想定されているからである。

この考え方は、もっともである。ただ、それは、聞き手が、すでに絵本の読み聞かせに対してワクワク感などを持ち、興味を示していることが前提であって成立するのではないだろうか。

今回の講演の目的は、普段読み手となっている大人が聞き手となり、絵本にもっと興味を持ってもらうこと、こどもに絵本をもっと自由に楽しむものだと感じてもらうことという2点であった。つまり、絵本に興味を持ち楽しんでもらうことに特化した読み聞かせである。

より効果的に絵本に興味を持ってもらうために「演じる」という要素を含めた演じ聞かせを選択したのである。この演じ聞かせに参加することを通して、絵本は大人にもこどもにも楽しさ、悲しさを感じてもらい、心の内面を描いた、人間の成長や振り返りに対する有意義な教材であることを知り、身近で気軽に手に取ることでできるおもちゃのひとつであることを認識してもらいたかったのである。

実際、こどもは笑顔で、時には大笑いし、おもちゃとしての絵本を楽しんでいたし、大人もこどもと一緒に笑っているシーンが多く見られた。

また、こどもの気持ちの描かれた絵本を演じ聞かせた時、涙を浮かべる保護者の姿を見ることもできた。

先述したデメリットは想定できるが、演じ聞かせによって絵本への興味がより持てたという点でいえば、効果的であったといえる。

2-3. 実践後

講演終了後、こどもからもっと読んでほしいとの要望があり、数冊読んだ。今回の演じ聞かせによって、絵本を読んでもらうことへの興味が湧いたと考えられる。また、保護者から絵本の選びのポイントやこどもが興味を持って聞いてくれる読み方のポイントなどを尋ねられた。このことから、今回の演じ聞かせに対する興味を感じた。

また、大人46名を対象とし「図書館講演会アンケート」を実施、今回の講演

会に対する感想を求めた。

このアンケートの内容分析から得られた演じ聞かせの効果について、次項において詳述する。

3. 図書館講演会アンケート

今回参加した大人46名を対象とし、感想を自由に書くという自由記述のアンケートを実施した結果、37名分の回答が得られた。

37名分の感想から演じ聞かせによる聞き手への興味付けができたと考えられるコメントを抽出し、演じ聞かせの可能性を示す。

3-1. 抽出したコメント

抽出したコメントをおよそ分類すると、は以下のようになる。

①絵本への興味付けを示唆する

- ① a 子どもたちと関わっていく際、より様々なことを意識していこうと思いました。また、絵本というツールの素晴らしさについて知ることが出来たので、今後活用していきたいです。
- ① b 特に対象者（お父さん、お母さん、子どもたち、先生のお気に入りなど）をわけて紹介していただいた本棚もはじめてで面白かったです。いろいろな角度から絵本を思えて今日からまた楽しんでめくれそうです。
- ① c いろいろな絵本を紹介してもらって楽しかった。もっと読書したくなりました。
- ① d 子供と一緒に絵本に夢中になってしまいました。
- ① e 子どもと共に参加できとても良かったです。
- ① f 大人も楽しく過ごせました。
- ① g 5歳の子どもが大喜びでした。
- ① h 子どもも喜んでとても良かったです。

- ① i 小4の息子と来ましたが、最後まで絵本の内容が気になるようでした。年齢は関係ないんだなと思いました。
- ① j 絵本の読み聞かせが、昔を思い出し、なんとも言えずよかったです。

②絵本の効果を示唆する

- ② a 自分自身がじっくり絵本を読んでもらうことが最近なかったので、今日はとても楽しかったし、癒されました。特に「おこだでませんように」は、子育てママとしての立場としてきき、普段の自分を反省し、心にしみるものがありました。
- ② b 今まで、どちらかといえば、役立ったり、ためになったり、気持ちが伝わるような本ばかり選んでいたのですが、今回のような子ども自身が楽しめるような本も選ぼうと思いました。
- ② c 初めての参加ですが、子どもに接する方法が、おはなしの中にヒントがあるのではないかと思いました。

③演じ聞かせの可能性を示唆する

- ③ a 絵本の読みきかせは今までたくさん聞かせてもらいましたが、今日の講師の先生が一番楽しそうでした。
- ③ b 先生の笑顔がステキだった。
- ③ c 子どもたちの絵本に対する反応と先生の読みきかせの楽しさ！とても楽しいひと時でした。
- ③ d 家で読んでもつまらなそうなのに、意外とくいついて喜んでいました。びっくりです。
- ③ e とても良かったです。先生の読み方もとても参考になりました。
- ③ f 読みきかせのボランティアをしていますが、私たちは絵本の持ち方、

めぐり方、読みきかせの間、声の調子など講習でも勉強しましたが、
先生の自由でたのしい読み方、表情、それもまた楽しくて、子どもたちも絵本を楽しんでいて、こういうよみ方もいいものだと思います。

3-2. コメントの分析

今回は「演じ聞かせ」を方法とし、その結果がコメントに現れているこということを前提とし、分析を試みた。結果として、先に示した①～③の3つの視点に分類することができた。それぞれの視点に対して、分析を試みる。

①「絵本への興味付けを示唆する」について

①に分類した①aから①jに共通することは、「楽しみ」「喜び」である。演じ聞かせたことによって、「楽しみ」「喜び」の意見が多かったかどうかはわからない。少なくとも①から読み聞かせることで、絵本に興味を持たせることができるといえる。

②「絵本の効果」について

②に分類したものに共通することは、「心」である。

②b下線部「今回のような子ども自身が楽しめるような本も選ぼうと思」ったから、こどもの「心」を大切にしたい絵本選びによって、これまでにない効果が得られる可能性を示唆する。

また、②c「子どもに接する方法が、おはなしの中にヒントがあるのではないか」から、絵本の内容からこどもの心に触れること、絵本を介して心と心の触れ合いを図ることができる可能性を示唆する。

つまり、絵本を、心と心の交流を図る効果が高いツールといえる。

さらに、②a下線部「癒されました」、「自分を反省」、「心にしみる」から、絵本は、読み手・聞き手そのものの心へ働きかける効果もあるといえる。

特に、②aは、演じ聞かせの効果と捉えたい。今回は、聞き手に委ねた読みではなく、読み手の解釈をもとに、場面の臨場感やセリフに重みを持たせて演

じた。そのことによって、聞き手の心に深く印象つけることができるであろう。

③「演じ聞かせが有効である可能性を示唆する」について

③に分類したものに共通することは、これまでの経験とは異質のものに触れたことによる発見である。ここでいう異質なものとは、本来の読み聞かせにはない、「演じる」という要素である。

③ a 下線部「絵本の読みきかせは今までたくさん聞かせてもらいましたが、今日の講師の先生が一番楽しそう」、③ b 下線部「先生の笑顔がステキ」、③ c 下線部「子どもたちの絵本に対する反応と先生の読みきかせの楽しさ!」、③ d 下線部「家で読んでもつまらなそうなのに、意外とくいついて喜んで」にみられるように、これまでの経験ない読み手がまず楽しむ、そして内容に合わせて喜怒哀楽の表情を作り読むという演じ聞かせに触れ、楽しさや喜びを感じているのである。

また、絵本の読み聞かせのボランティアの意見として、③ e 下線部「先生の読み方もとても参考にな」った、③ f 下線部「絵本の持ち方、めくり方、読みきかせの間、声の調子など講習でも勉強しましたが、先生の自由でたのしい読み方、表情。それもまた楽しくて、子どもたちも絵本を楽しんでいて、こういうよみ方もいいものだ」とあり、一定の評価を得ることができた。

3-3. コメントの分析から言えること

3-2で、①・②・③の3つの視点から、絵本効果と演じ聞かせの可能性をまとめた。

絵本は、1「人と人をつなぐコミュニケーションツールであること」、2「心と心をつなぐツールであること」、3「自身の内面を見つめ直すツールであること」がわかった。

その上で、演じ聞かせは、絵本への興味付けをし、さらに1.2.3の効果をより引き出す方法のひとつとして有効なものであるといえる。

4. 絵本を開きたいと思う気持ちを育てるための“演じ聞かせ”

今回の実践とアンケート結果から、演じ聞かせは、絵本を読む方法のひとつとして一定の効果を発揮できるものと結論付けたい。

絵本は、こどものために存在し、こどもにとってのおもちゃであり、エンターテインメントツールのひとつなのである。

一般なおもちゃで遊ぶことを通して想像力や発想力が自然付いていくのと同様、絵と活字により構成されたおもちゃとしての絵本でこども自ら遊ぶことでさまざまな能力が自然についていくのである。

そのおもちゃとしての絵本に興味を持たせるきっかけとして、内面を知り、心の触れ合いを演出する方法として、演じ聞かせは有効と考える。

5. 今後の展開

今後、興味付け、おもちゃとしての絵本に触れるきっかけ作りを目的とした演じ聞かせを継続的におこなうことで、以下のことを考察・検証していきたい。

- ①興味付けとしての演じ聞かせの方法の確立
- ②家庭における絵本の読み聞かせにおいて「演じる」ことの有効性
- ③就学前教育として、演じ聞かせを用いた基礎的能力開発の可能性

謝 辞

尾鷲市立図書館の講演会という形で、貴重な読み聞かせの機会を与えていただいたこと、アンケートの結果の使用を許可いただいたことに対して、関係者の方々に感謝申し上げます。

—絵本リスト—

		題 名	作 者	出 版 社
個人的に好きな絵本	1	アンジュール～ある犬の物語～	ガブリエル・バンサン	B L 出版
	2	うえきばちです	川端誠	B L 出版
	3	おにぎりがしま	やぎたみこ	ブロンズ新社
	4	だるまさんが（だるまさんと、だるまさんの）	かがくい ひろし	ブロンズ新社
	5	つきのよるに	いもと ようこ	岩崎書店
	6	おいしいともだち とうふさんがね 他	とよた かずひこ	童心社
	7	ちがうねん	ジュン・クラッセン 作 長谷川義史 訳	クレヨンハウス
	8	どこいったん		クレヨンハウス
	9	どうぞのいす	香山美子 作 柿本幸造 絵	ひさかたチャイルド
	10	はるのゆきだるま	石鍋 美佐子	偕成社
	11	パンダ銭湯	tupera tupera	絵本館
	12	ほげちゃん	やぎたみこ	偕成社
	13	ほげちゃんまいごになる		偕成社
	14	もうふのなかのダニイたち	ベアトリーチェ・アレマーニャ	ファイドン
	15	ぼいぼいぼいぼ	五味太郎	偕成社
	16	んんんん		偕成社
おとうさん・お母さん絵本	17	あかちゃんがやってくる	ジョン；バーニンガム	こどもプレス
	18	おかあさん だいすき 1. 2. 3	村上 勉	あかね書房
	19	おかあさんがおかあさんになった日	長野ヒデ子	童心社
	20	おかあさんげんきですか。	後藤竜二	ポプラ社
	21	おかあさんだいすきだよ	みやにしたつや	金の星社
	22	おかあさんのいのり	武鹿悦子	岩崎書店
	23	かあちゃんかいじゅう	内田麟太郎	ひかりのくに
	24	ぼくおかあさんのこと…	酒井駒子	ぶんけい
	25	ママ、あててみて	すえよしあきこ	偕成社
	26	おとうさんがおとうさんになった日	長野ヒデ子	童心社
	27	おとうさんだいすき	司修	啓林館
	28	おとうちゃんとぼく	にしかわ おさむ	ポプラ社
	29	たすけて！クマとうさん	デビ；グリオリ	評論社
	30	ちいさくなったパパ	ウルフ；スタルク	小峰書店
	31	とうさん	内田麟太郎	ポプラ社
	32	とうちゃんなんかべーだ！	伊藤秀男	ポプラ社
	33	どんなときもきみを	アリスン；マギー	岩崎書店
	34	パパだいすきママだいすき	やすいすえこ	岩崎書店
	35	ゆうたくんちのいばりいぬ6 ゆうたのおとうさん	きたやまようこ	あかね書房

おとうさん・お母さん絵本	36	いつもいっしょ	かさいまり	くもん出版
	37	おはな つんつん	武内祐人	くもん出版
	38	おへそのあな	長谷川義史	B L 出版
	39	いまは話したくないの (親が離婚しようとするとき)	ジニー；フランツ；ランソン	大月書店
	40	うさぎさんてつだってほしいの	シャーロット；ゾロトウ	富山房
	41	うれしくてうれしくて	かさいまり	くもん出版
	42	おいしーい	いしづ ちひろ	くもん出版
	43	おこだでませんように	くすのきしげのり	小学館
	44	おでこびたっ	武内祐人	くもん出版
	45	おててたち		くもん出版
	46	おやすみ～	いしづ ちひろ	くもん出版
	47	きもち	谷川俊太郎	福音館図書館
	48	けんかのきもち	柴田愛子・伊藤秀男	ポプラ社
	49	ごめんね ごん	岡村好文	偕成社
	50	さっき ごめんね	柴生田ますみ	銀の鈴社
	51	ぜったいぜったいねるもんか！	マラ；パーグマン	ぼるぶ出版
	52	だきしめてほしくって	カール；ノラック	ぼるぶ出版
	53	ちいさなヒッポ	マーシャ＝ブラウン	偕成社
	54	ちびゴリラのちびちび	ルース；ボーンスタイン	ホルプ出版
	55	ちゃんとたべなさい	ケス；ゲレイ	小峰書店
	56	なきむし	長崎源之助	童心社の絵本
	57	に～っこり	いしづ ちひろ	くもん出版
	58	ねつでやすんでいるキミへ	しりあがり寿	岩崎書店
	59	ねむれないの？ちいさなくまくん	マーティン；ワッデル	評論社
	60	はやくはやくっていわないで	益田ミリ	ミシマ社
	61	ぷくちゃんのたくさんだっこ	ひろかわさえこ	アリス館
	62	ボクはじっとできない	バーバラ；エシャム	岩崎書店
	63	やさいさんごめんね	志茂田景樹	KIBA BOOK
思考力	64	しろとくろ	新井洋行	岩崎書店
	65	きょうのおやつは	わたなべちなつ	福音館図書館
	66	にじをつくったのだあれ？	ベティ・アン・シュワルツ	世界文化社
	67	ふまんがあります	ヨシタケシンスケ	P H P 研究所
	68	ぼくのニセモノをつくるには		ブロンズ新社
	69	りゅうがあります		P H P 研究所
	70	りんごかもしれない		ブロンズ新社